

# CentreCOM® 8224SL リリースノート

この度は、CentreCOM 8224SL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。  
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。  
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ソフトウェアバージョン 4.0.11J

## 2 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン4.0.4Jから4.0.11Jへのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

### 2.1 New Address トラップ追加



「CentreCOM 8224SL 取扱説明書」60 ページ

「AT-S50 オペレーションマニュアル」85, 230 ページ

新しいMACアドレス学習時に発行される、New Address トラップが追加されました。デフォルトは「0」で、New Address トラップを送信しないように設定されています。

#### メニューオプション

[Main Menu] -> [System configuration] -> [SNMP parameters] -> [Trap parameters] に、New Address トラップが追加されました。

#### コマンド

SET SNMP コマンドに、引数 NEWADDRESS が追加されました。

### 2.2 トラップの有効/無効の切り替え



AT-S50 オペレーションマニュアル /

「2.4 システム設定」 「3.4 システム設定コマンド」

SNMP 認証トラップおよびポートのリンクアップ/リンクダウントラップを生成する/しないを設定できるようになりました。デフォルトは、SNMP 認証トラップを生成しないように設定され、また、ポートのリンクアップ/ダウントラップを生成するように設定されています。

#### メニューオプション

[Main Menu] -> [System configuration] に、次のメニューオプションが追加されました。

[SNMP parameters]->[Authenticate Failure Trap]/[LinkUpDownTrap Enable Ports]

#### コマンド

次のコマンドが追加されました。

ENABLE SNMP [AUTHENTICATE\_TRAP] [LINKTRAP[={port-list|ALL}]]

DISABLE SNMP [AUTHENTICATE\_TRAP] [LINKTRAP[={port-list|ALL}]]


なお、メニューまたはコマンドラインインターフェースから、リンクアップ/リンクダウントラップを生成しない(Disable)設定にするか、SNMP から MIB-II の ifLinkUpDownTrapEnable オプ

ジェクトをDisableに設定して本製品を再起動した場合、ifLinkUpDownTrapEnableには”0”を返しますが、正しく動作しています。

### 3 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン4.0.4Jから4.0.11Jへのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

#### 3.1 エージングタイムについて

 **参照** 「AT-S50 オペレーションマニュアル」 67, 201 ページ

エージングタイムとして設定できる最大値が、999(秒)から412(秒)に変更になりました。ソフトウェアバージョン4.0.4J以前で413(秒)以上に設定していた場合は、ソフトウェアのバージョンアップ後、エージングタイムが自動的に412(秒)に設定されます。

### 4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン4.0.4Jから4.0.11Jへのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。


- 4.1 存在しないホストに対して、MAC アドレス指定でPing を実行すると、RARP パケット(ブロードキャストパケット)が約15秒間送信され続けることがありましたが、これを修正しました。
- 4.2 IGMP スヌーピング有効時に、本製品に存在しないVLAN ID を持つIGMP メッセージ(Query, Membership Report)を受信すると、そのグループがMAC アドレステーブルに登録されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.3 マルチプルVLANモード時に追加したスタティックMACアドレスを、コマンドラインインターフェースから削除(DELETE FDB DESTADDRESSコマンド)した後で再起動すると、削除したスタティックMACアドレスが戻ってしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.4 マルチプルVLANモード時に、すでに学習済みのMACアドレスをスタティックMACアドレスとして登録しても、エージング機能により自動的に消去されてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.5 マルチプルVLANモード時、クライアントVLANに属するポートから、本製品と同じMACアドレスを送信元MACアドレスとするパケットを受信すると、本製品のMACアドレスがエージング機能により消去されてしまい、本製品宛の通信が不可能になってしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.6 マルチプルVLANモード時、各VLANの所属するポートの変更を行った後で、テキスト形式の設定ファイルをアップロードし、再度ダウンロードすると、設定内容が変わってしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.7 ICMP Redirectメッセージの受信により、本製品宛の通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。

- 4.8 タグ付きポートにスタティックMACアドレスを登録すると、そのタグ付きポートから送出されるパケットにタグが付与されなかったことがありましたが、これを修正しました。
- 4.9 登録済みユーザーのパスワードを特定のパスワードに変更すると、変更後のパスワードでログインできないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.10 VLANを新規に作成した後に、SHOW CONFIGコマンドで設定内容を確認した場合、作成したVLANのVLAN IDが省略されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.11 タグ付きIGMP Queryメッセージを受信したポートが、タグで指定されたVLANの所属ポートではないのに、指定されたVLANにパケットをフラッディングしてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.12 RRPスヌーピング設定時、マスタールーターとスレーブの切り替えを検知し、登録されていたMACアドレステーブルを消去した後、通信のタイミングによっては、切り替え前のマスターからのパケットを受信してMACアドレスの登録を行ってしまうため、新しいマスターに正しく切り替わらないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.13 BPDU内のMessage Ageが” 0x001a” ずつ増加するのを、” 0x0100” (1秒) ずつ増加するように修正しました。
- 4.14 SysUpTime(起動時から現在までの稼働時間)に、1ヶ月につき約1日の誤差が発生していましたが、月差約 120 秒に改善されました。
- 4.15 ポートランキング接続時、トランクグループ2(ポート9~16)に属するポートのリンクアップ、ダウンを繰り返すと、通信速度が落ちることがありましたが、これを修正しました。
- 4.16 ポートセキュリティーのSecureモード動作時、メニューから新規VLANの作成、ポートの追加を行うと、追加したポートに登録されていたMACアドレスだけでなく、その他の一部のMACアドレスの所属ポートも変更されてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.17 マルチプルVLANモードで連続稼働時間が497日を超えると、MACアドレスが登録できなくなり、本製品宛通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 4.18 拡張モジュールのAT-A15/SX装着時、ポートの通信速度を固定設定に変更し、現在の設定を確認すると正しく表示されないことがありましたが、これを修正しました。

## 5 本バージョンでの制限事項


ソフトウェアバージョン 4.0.11J には、以下の制限事項があります。

### 5.1 マルチプルVLANについて

 **参照** 「AT-S50 オペレーションマニュアル」 141 ページ

マルチプルVLANとスタティックMACアドレスを併用し、設定ファイルをダウンロードすると、スタティックMACアドレスの所属VLANが全てCV1になってしまいます。

### 5.2 IGMPスヌーピングについて

 **参照** 「AT-S50 オペレーションマニュアル」 100 ページ


IGMPスヌーピング機能有効時、グループに登録されていないホストから、Leave Groupメッセージを25パケット以上連続して受信すると、その後、IGMP Reportメッセージを受信しても、MACアドレステーブルにIGMPグループのアドレスが登録されず、またパケットもフラッディングされません。

### 5.3 DHCPクライアント機能について

DHCPクライアント機能使用時、Renewal Time Value(T1 Timer)の時間が経過するとDHCP requestを送信しますが、このときDHCPサーバーがネットワークから切り離されているなどして応答がなかった場合、DHCP requestを再送しません。また、リース時間経過後も、DHCP releaseを送信しないため、IPアドレスを保持し続けてしまいます。

## 6 マニュアルの訂正と補足

### 6.1 Xmodemによるソフトウェアのダウンロードについて

 **参照** 「AT-S50 オペレーションマニュアル」 53, 186 ページ

Xmodemによるソフトウェアのダウンロードについて、付属のマニュアルに以下のメニューオプション、およびコマンドの説明が記載されていますが、これらは本製品に実装されていないので、訂正してお詫びいたします。

#### メニューオプション

[Main Menu] -> [Administration] -> [XModem software update to this system]

#### コマンド

LOAD

Xmodemを使用してソフトウェアをダウンロードする場合は、Bootメニューから行ってください。以下に手順を示します。

- 1 電源ケーブルを抜き差しする、リセットボタンを押す、またはRESTART REBOOTコマンドを実行して、システムを再起動します。
- 2 「Hit any key to run diagnostics or to reload system software. . .」と表示されている間に任意のキーを押します。

**3** Bootメニュー(ATI Diagnostics)が表示されたら、「->」プロンプトに続けて`␣`を入力し、`[X: XMODEM download updated System Software]` オプションを選択します。

**4** リセットシーケンスが開始され、ダウンロードの準備完了のメッセージが表示されます。

```
The System is now ready for download. Please start your XMODEM transfer.
cccc
```

**5** コンピューター(コンソール)から、ファイルを転送します。  
プロトコルタイプは「Xmodem」を選択して通信ソフトウェアのファイル送信を実行します(ファイル転送の手順については、使用している通信ソフトウェアのマニュアルなどをお読みください)。

**6** ファイル転送が正常に終了すると、次のメッセージが表示されて、システムは自動的に再起動します。

```
XMODEM transfer has successfully completed. Now writing to Flash PROM.
```

**7** 「(press RETURN once or twice to enter User Interface)」と表示されたら、`[Enter]`キーを押します。

**8** 「Login: 」プロンプトが表示されます。

## 6.2 起動時の画面表示について



「CentreCOM 8224SL 取扱説明書」32, 45, 66 ページ  
「AT-S50 オペレーションマニュアル」15, 293 ページ

本体起動時(ログイン前)にローカルコンソール画面上に表示されるメッセージに一部誤りがありますので、訂正してお詫びいたします。

Ⓜ (press RETURN once or twice to enter Main Menu)

Ⓝ (press RETURN once or twice to enter User Interface)

## 6.3 メニューでの設定保存時の画面表示について




「CentreCOM 8224SL 取扱説明書」64 ページ  
「AT-S50 オペレーションマニュアル」22 ページ

メニューでの設定の保存(`[Save]`を選択)時、およびログアウト(`[Quit]`を選択)時に表示される確認のメッセージに誤りがありますので、訂正してお詫びいたします。

Ⓜ Is configuration saved? (Yes or No):

Ⓝ Do save configuration now? (Yes or No):

## 6.4 SET MIRROR コマンドの書式について


 「AT-S50 オペレーションマニュアル」 251 ページ

SET MIRROR コマンドの書式に一部誤りがありますので、訂正してお詫びいたします。

⑧ SET MIRROR [SOURCEPORT=mirror-port] [DESTINATIONPORT=port-number]

⑨ SET MIRROR [SOURCEPORT=port-number] [DESTINATIONPORT=port-number]

## 6.5 RMON 統計情報表示について

 「AT-S50 オペレーションマニュアル」 182 ページ

SHOW PORT COUNTER コマンドで表示される統計情報の説明にRMON 統計情報が記載されていません。訂正してお詫びいたします。各項目の内容は「AT-S50 オペレーションマニュアル」48 ページの表を参照してください。

```


Manager% show port=1 counter 

Port 1 Counter Information
-----
Receive:
Frames          0
Filtered        0
Broadcasts      0
Multicasts      0
CRC Errors      0
Undersized      0
Fragments       0
Long            0

Transmit:
Frames          0
Broadcasts      0
Multicasts      0
Collisions      0
Late Collisions 0

RMON:
64 Byte         0
65-127 Byte     0
128-255 Byte    0
256-511 Byte    0
512-1023 Byte   0
1024-1518 Byte  0
-----
  
```

## 6.6 CentreCOM 8224XL からの設定の移行について

 「CentreCOM 8224SL 取扱説明書」 53 ページ

「AT-S50 オペレーションマニュアル」 294 ページ


本製品は、CentreCOM 8224XL (以下、8224XL) から TFTP によって Get したバイナリーの設定ファイル (config.img) を、本製品の FTP/TFTP サーバー機能によって Put し、8224XL の設定を引き継ぐことができます。本製品のみで搭載されている機能については、工場出荷時のデフォルト設定が使用されます。

## —例外—

- ログインパスワード  
本製品はログイン名とログイン名に対応したパスワードによる認証を行うため、8224XLで設定したパスワードは引き継がれません。パスワードはデフォルトの「friend」が設定されます(ログイン名は「manager」)。
- ポートのMDI/MDI-X設定  
ポートのMDI/MDI-X設定は、Fixed MDI-X(MDI-X固定)になります(本製品のデフォルト設定はAuto MDISet(MDI/MDI-X自動切替))。

---

## 6.7 マルチプルVLANモードとポートセキュリティの併用について

 「AT-S50 オペレーションマニュアル」 148 ページ

マルチプルVLANモードとポートセキュリティを併用した場合、1つのUplink VLAN Group(UVとCVのグループ)内に同一のMACアドレスを複数登録することはできません。

---

## 6.8 電源ケーブルの長さについて

「1.1 梱包内容」に記載されている「電源ケーブル」の長さに誤りがありますので、訂正してお詫びいたします。

- Ⓜ 電源ケーブル(2m) 1本
- Ⓝ 電源ケーブル(1.8m) 1本

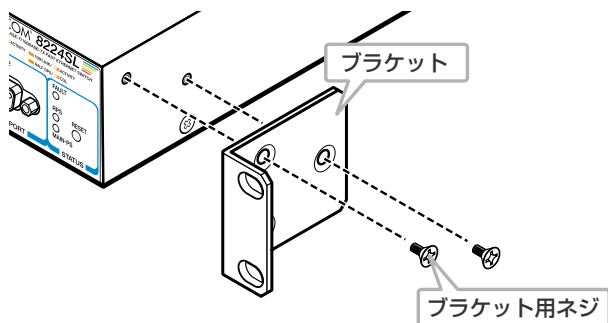
---

## 6.9 19 インチラックへの取り付けについて

 「CentreCOM 8224SL 取扱説明書」 14, 20, 24 ページ

製品リビジョンRevC1以降、19インチラック取り付けのためのブラケット用ネジ穴、および同梱のブラケット用ネジの個数が6個から4個になり、ブラケット1個につき2か所を止めるよう仕様変更されましたので、ご注意ください。計4か所の固定でも強度に問題はありません。製品リビジョンは、製品に同梱されている(本体背面に貼付されている)シリアル番号シールに記載されています。

RevC1以降の製品は、ブラケットを下図のように取り付けてください。



なお、ブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用してください。同梱品以外のネジを使用すると、火災、感電、故障の原因となります。

